

玉翠会報

(第 11 号)

発行所 高松市番町
高松高等学校内
高松高等学校玉翠会
責任者 綾田 整治
印刷所 柳アラモード印刷

同窓 同窓会館「玉翠会館」と命名

竣工予定は平成三年新春

平成元年度の理事会および代議員会は、平成元年十一月二十日(月)十三時より十六時三十分まで、高松校会館において開催された。

同窓会館の起工式、その後の工事の進捗状況についての報告、生徒部会も賛助金が大幅に伸びているとの説明があった。続いて、種田正太郎氏を仮議長に選出、役員会で議入される御堂が事務局から報告され、客附者の氏名を刻んだ。

平成元年度の理事会および代議員会は、平成元年十一月二十日(月)十三時より十六時三十分まで、高松校会館において開催された。

同窓会館の起工式、その後の工事の進捗状況についての報告、生徒部会も賛助金が大幅に伸びているとの説明があった。続いて、種田正太郎氏を仮議長に選出、役員会で議入される御堂が事務局から報告され、客附者の氏名を刻んだ。



夏空に雄姿を見せはじめた改築中校舎
左後方に見えるのが香川県庁、同窓会館はこの道路に面した五階部分に位置する。

だ銅板製作、十七人乗りエレベーター、現校舎の機軸制作等が承認された。質疑の中で、資材室の充実を求めているとの要望が出た。学校と同窓会合同で考えていくこととなった。また、落成式、百年記念に向けての取り組みについて質問があり、これに対して、学校側より、校舎・玉翠会館落成記念行事実行委員会および、創立百年記念行事実行委員会委員会の設立が提案され、全員一致で採択された。

校舎・玉翠会館落成

記念行事実行委員会

落成式は六月にと提案

平成二年一月二十九日、玉翠会館、副会長を顧問にお迎えし、高松、晩高、高松の各部会より推薦を兼ねて選出された委員の方、P.T.A.代表、学校の委員が参加し第一回委員会が開催された。議長に北村重三氏を選出され、落成記念式典、同窓会行事の開催について協議、これらの行事は午前午後に分けて同日に行うことと合意した。

豊かな年輪を

校長 塩井敏治



第二回は二月二十日同じく母校会館で開かれ、時期については二月、六月の両案を熟慮検討した結果、学校の通行事を勘案し、平成三年六月十五日を第一案、六月二十日を第二案として提案することに決定した。記念式典会場は異議なく本校会館が承認されたが、落成祝賀行事については、参加者数千人以上と見込んでおり、収容人数、会費、交通の便等を考慮する必要がある。

創立一〇〇周年記念行事 企画委員会

第一回創立一〇〇周年記念行事企画委員会、平成二年二月九日に高松校会館で開かれた。玉翠会館館長の井原一氏の挨拶をいただき、続いて広瀬実氏の司会のもと、各部会から推薦された委員、及びP.T.A.代表、学校の委員によって、かなり自由な立場で一〇〇周年についての意見交換が行われた。

第二回は七月三日に高松校会館で開かれる予定である。記念行事を平成五年に実施すること、記念誌を発刊すること等が、記念行事実行委員会等が協議される予定である。

ごあいさつ

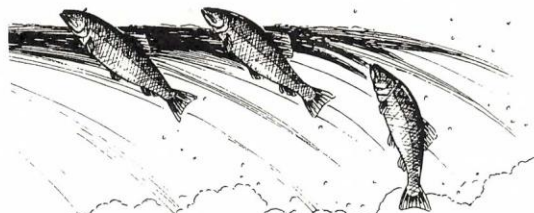
玉翠会会長 綾田 整治



お慶び申し上げます。
昨年十一月の玉翠会代議員会におきまして、本会員の改選が行われ、玉翠会会長の推薦に続き、玉翠会の会長に推薦頂き、また大東栄喜一氏に推薦頂きました。また副会長、理事、監事および顧問の選出もいたしました。平成二、三年度までの体制で本会を運営させていただきます。

平成も二年度に入り、いよいよ名実ともに四世の会員の時代となつてまいりました。四万の会員の擁護する玉翠会の発展と発展の一つの象徴として、落成式完成ではないかと考え、そのために努力してまいりました。日々玉翠会を見守る校舎改築工事の進捗を見守り、致す度に、同窓会の皆様方の母校に寄せた思いに感謝の念を禁じえないのであります。今までも同窓会が申しあげましたように、同窓会館を校舎に組み入れた斬新な発想は、全国的にも稀なもののだけに、その使用方法につきましても皆様方によく検討をいた

一生懸命が美しい。



百十四銀行

激流をものともせず川を上るサケ、そのひたむきな姿は美しく輝いています。くらのさまさまと出来事をその流れにたどるならば、あなたのひたむきな姿が、それを超えてくらしを支え、輝かせているといえます。百十四はそんな輝きを放つあなたを影ながら支えてゆければと思います。

第七回 坂出
高中・高高会開催

久しぶりの旧交を暖め
ました。高中二年男
卒の最優秀北沢和男会
長とユーモア溢れる
若々しいご挨拶につづ
いて、塩野校長より母
校の近況を説明ありま
した。

それぞれ青春時代の代
表写真・自撮りが飛び
交った。正に青春真っ
只中の盛り上がりを見
せておりました。会費
数も百四十名（内高中
回五十四名）も越え
ました。盛会となつて



暖かいおつきあい

私、昭和十年卒生は毎月一回
昼食会を開きお料理を楽しみ、雑
談に花を咲かせ通い合うひの刻
を過満に足りた思いで来月の再
会を約し別れました。お互いに古稀
を迎えを暮らすまでです。この会を昭寿
会と名付けました。

私達が集いの中合田艶子様か
時折加わるようになれ、私、同
じ多摩津町在住で本年九十才
(大正十年卒)と、言っても誠に不
元氣な身の回りはすべて一人にな
り、短歌結社第 同人としても
いまだ作家活動されたいとも
、指導者として多くの歌人を育
ててくれました。夫君(一貴族
院職員)に死別されてより此の
ため、整然とした身となり、独り
の健康、脚陰、草花、洗濯など
と忙しく動いておられます。洗
ひは先づ一師しすることになえ
と忙しく動いておられます。洗

渡る頭脳と、若々しいお達者
に励まれます。二十年余も
の違うグループと、共に黙談
でも全くの差が感じられ
ん。色々と教えられ
川六ホテルでの襟の折は
林公園(案内)内閑を散歩
時も笑顔でカメラに取まり
写真を見てびっくり、私共の
老いて見えるではありません
母校愛心にありてこそ結
縁の縁の関係と思ひ、
ように蘇ると親しく楽しく
まつて行、昭寿会、やはた
事、班長を中心に一同で助
い、励ま合う努の賜と大
感謝しいることとです。

高松高等校舎の定年と、玉
会館の新築落成を皆々の希望
で心待ちに居ります。

(昭和十年卒) 小川敏子

高麗40会25周年同窓会

一月、四十年代卒生の二
記第三回同窓会が、塩
をはめ十六名の講師の
もとと名前に加盛大に
供の愛敬を為残念な
この語もあったが、県
あつたこともない。

をを迎えました。歳月の早さで友情
の絆強く、有難さや感動すること
同時に今後共にしていきたいと
と思ふ。母校の発展、先生方の御
健康、五年後同窓会全員の
達成の事を願うものです。

（中平孝 角田朝朗）



し育ちの良さを備えていた子供でした。男児と女児のおが家と此が、やさしさと特別のぬくもりが懸かるれました。上の二人は附属学校へ転入した。昭和初年年代は男女七才にして席同じうせず、で学校へ往復する道で顔を合せても、微笑交わすて、いとめてるを言うともさへ聞かれた。

昭和五年春女は高女に私は高中に入學した。学年が進むに従つて学校の住りに会つても素知らぬなりをすう事になつた。と同時に早春期から通へNとが娘さうすこづ一家といふ異郷の成立

再

でした。

昭和八年十二月学期末試験がた頭さんさんの家、懐しく引越の借道をしてゐるでは、なかそれたぐ母を逢つてきててもうと父上が満洲のB市へ来転す。

年末の冬の寒し時に転動とはその年正月お互い家でカタ、トラン遊をしたが、唯の記念になった。写真の交換も

再会

つた。五、六年前に別れた少女の彼女の現在をイメーシじしひと胸の奥にしまっておくことにした。去年の正月友の賀に「附属小学校在京同窓会」があり出席者名が付記され、その中にNさんが発見された。

私も百病を過ぎた。余命も測り知れぬ、も再会であらう……とあわい希望を胸に秘めて手紙を書いた。

「友の賀状縁となりて去秋に五五年ぶりの再会題し」と「山花春を品より老い友と会」と（寛政八年）

われ思ひがした。これが晴矢となりととききりて交換しに去年うち旧友を暖めることに去う（二十三年秋）ブルームーで来られた主人二人を高松に迎え再会を果たしたのです。

お互いの生け証として夏と新年の回は便り交換することを固く約束。近況俳句の交換が続いてい……

は愛会名簿で彼女の生存を知

会

運動部及び文化部の活躍

平成元年度も、我校の運動部、文化部は健闘し、数々の栄誉を手中にした。その中でも全国高等学校総合体育大会で、ヨット女子のS級3位と男子フェンシング・エペの部第4位は、特に輝いている。

平成元年名士講演会

「林康子氏を迎えて」

「みなさん、こんにちは。」、
 明るく挨拶とともに、六月二十
 一日、名士講演会は幕を開けた。
 お迎えには、世界を舞台に活躍
 中のオペラ歌手、林康子氏であ
 る。一曲め「さくさく」の歌
 声が響き始めると、場
 内は水を打ったように
 静まり返り、続く一曲
 の間も、在校生は、そ
 の透明な歌声にうっとり
 りと聞きはれていた。
 林氏は本校を昭和三十
 七年に御卒業、以後
 イタリアに在住なさ
 る。今回の講演会
 は、サントリー音楽員
 受賞のための帰国を機
 に実現したものである。
 会後、林氏の御希望
 もあって、生徒から出



進められた。氏の明朗なお人柄も
 あってか、終始、明るく和やかな
 ムードであった。そして、生徒た
 ちの感動の大きさは、そのまじ情
 しみなし拍手なり、会場の盛況の
 うもを華を下したのであった。



会費納入ありがとうございました。

平成元年度 玉翠会会費納入状況

平成2年3月20日迄

合計 2,692,730円

高 中 部 会						晚 翠 部 会						高 高 部 会					
回	人数	金 額	回	人数	金 額	年	人数	金 額	年	人数	金 額	年	人	金 額	年	人数	金 額
23	1	1,000	46	30	31,000	T2	1	1,000	13	23	33,000	S25	20	23,000	47	12	16,000
24	2	3,000	47	47	60,500	3	2	2,000	14	57	58,000	26	50	66,000	48	4	6,000
25	1	1,000	48	14	20,000	5	3	3,000	15	30	30,000	27	33	39,000	49	5	5,000
27	3	3,000	49	55	60,000	7	3	3,000	16	28	28,000	28	27	31,000	50	8	9,000
28	3	26,000	50	66	76,000	8	3	26,000	17	23	24,000	29	20	35,000	51	2	2,000
29	9	56,000	51	9	11,000	9	1	1,000	18	31	34,000	30	10	11,000	52	11	16,000
30	3	21,000	52	3	3,000	10	3	4,000	19	36	45,000	31	16	18,000	53	14	15,000
31	3	5,000	53	6	22,000	11	4	4,000	(5)	24	26,000	32	12	25,000	54	12	12,000
32	3	5,000	54	12	17,000	12	8	25,000	(4)	17	19,000	33	27	34,000	55	4	5,000
33	2	3,000				13	5	7,000	21	19	20,000	34	22	28,000	56	6	15,000
34	8	12,000				15	40	43,000	22	9	18,000	35	71	99,000	57	4	4,000
35	4	15,000				S2	5	6,000	23	30	43,000	36	31	35,000	58	6	6,000
36	7	9,000				3	7	7,000	24	9	12,000	37	7	8,000	59	9	13,000
37	18	82,000				4	21	58,115	女高	4	4,000	38	14	16,000	60	8	9,000
38	57	60,000				5	16	16,000				39	9	11,000	61	13	14,000
39	11	12,000				6	40	40,000				40	14	20,000	62	16	22,000
40	12	14,000				7	20	50,115				41	11	23,000	63	20	25,000
41	35	60,000				8	40	42,000				42	7	8,000	元	35	46,000
42	11	24,000				9	17	23,000				43	11	20,000	旧職員	1	1,000
43	12	17,000				10	57	69,000				44	11	17,000	年費不納	3	3,000
44	12	13,000				11	28	32,000				45	14	19,000	定野制	3	7,000
45	26	47,000				12	62	95,000				46	6	8,000	通信制	89	107,000
合 計 789,500						合 計 951,230						合 計 952,000					

昭和63年度 玉翠会会計収支決算書

(昭和63年4月1日~平成元年3月31日)

収入の部		金額	支出の部		金額
前年度より繰越金	13,920,824		支部総会お祝い	250,000	
高高中部会費	990,000		支部総会旅費	740,020	
晩翠部会費	1,188,000		慶弔費	227,160	
高高中部会費	1,174,800		玉翠会報印刷代	112,070	
定時制部会費	37,000		玉翠会報印刷代	216,800	
入会金(全・定・通)	1,554,800		印刷代	15,400	
広告料	100,000		玉翠会職員給与補助金	205,000	
名簿代金	250,000		卒業生記念品代	936,062	
雑収入	486,880		郵送料	136,200	
受取利息	512,609		退職記念品料	95,400	
			メンテナンス	183,000	
合 計	20,232,913		消耗品費	150,000	
			雑費	3,598	
			合 計	7,130	
			合 計	3,277,840	

収入合計 20,232,913円

支出合計 3,277,840円

差し引き合計 16,955,073円

次年度繰越金 16,955,073円

平成元年度 会費納入者

- 四四回 宮井二郎、木下廣、大西青一、高木典、木村正樹、穴吹
- 四三回 岩田春雄、佐田三、大野田、中尾三郎、村井進、中瀬三郎、秋山雄、長尾廣、伏石清、武田三、成瀬、松田正
- 四二回 安藤、飯島、三好、木村、荒木
- 四一回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 四〇回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三九回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三八回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三七回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三六回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三五回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三四回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三三回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三二回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三一回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三〇回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二九回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二八回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二七回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二六回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二五回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二四回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二三回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二二回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二一回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二〇回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一九回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一八回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一七回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一六回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一五回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一四回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一三回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一二回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一一回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一〇回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 九回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 八回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 七回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 六回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 五回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 四回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 三回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 二回 松原、飯島、三好、木村、荒木
- 一回 松原、飯島、三好、木村、荒木

玉 翠 會 報

平成2年6月25日発行 (6)

- 小磯子、赤松初葉、三好孝子、赤松シメ、久保誠子、小島芳子、松原ミズ子、水谷野子、香川代子、平田博子、石原藤子、山田久子、越智真直、石川千代、西國綱子、小川敏子、吉村和子、高橋鶴子、井藤子、堤時子、土井政子、西加代、大崎善子、龜山美子、堀光子、岡孝子、長尾滋、山島信子、三好登代子、數内ウツ子
- 二 桑田千枝、足立房子、松房カズ子、藤川寿枝、合田千代子、中島子、香ノ子、高島善子、佐藤忠子、釜野善子、横関静子、新佐佐木、小園健子、喜岡ツギ子、鷹尾律子、鹿田喜美子、安田待子、長尾志子、徳本チ子、片山千子、三木晴子、山田保子、大木貴子、長谷部昌子、藤本孝子、三宮淑子、橋本代子、青木マサ子
- 三 太田ササ子、藤澤豊子、村瀬實代子、原キミ子、三好当子、林代子、杉上敬子、杉野百合子、大津洋子、赤澤可尋枝、佐々木良子、菅英、河辺和子、丸尾善子、亀多喜恵子、磯川文子、小田文子、山崎嘉美子、赤沢節子、上田喜代子、坂口好子、杉原静代、吉田代子、名義子、佐伯美枝、山地文子、菅原歌子、松下マユ子、山本和子、河田キミ子、三好光子、喜田和子、三谷ツ子、宮地富代、板津律、三木加賀池口愛子、平野房子、四宮和子、森田春子、中村惠子、横倉キエ子、須田和子、吉原ツ子、佐藤君子、史明達子、松本久子、久保子、高橋千子、宮本佳子、久保利子、多田照子、奥穂子、宮脇久子、吉本綾、川津セト、中沢キヨ子、久保八重子、長尾幹子、千歳シズ子、宮本哲世、長松文化代補子
- 三 前美代、田淵幸子、東原シゲ子、瀬尾子、武井小夜子、大庭エツ子、山ミヅ子、馬場寛子、千葉紀子、神崎多恵子、萱原久子、木村夢子、杉形明子、橋本浩子、横山代子、村上愛子、小田文子、廣瀬源子、河地進子、三浦貞子、上原小菊、葛原美代子、久保愛子、藤原弘子
- 四 広瀬静子、岡井福美子、伊藤草子、坂本幸子、樋端政子、二宮重実、黒田佐代子、山下正子、真盛シズ子、平井貞子、野田重子、赤松子、中條壽子、太田隆、木村亮子、森川君子、櫻谷延子、多田ミヤ子、三井邦枝、棚川恵子、公文智恵子、氏家夏樹、岡本京子、石床サカ子、青山孝子、対馬タツ子、加藤勝子、植松良子、米谷金子、高田幸枝、千葉礼子、藤本雅枝、丸吉多喜子、山崎善美子、岡野喜代子、香西久菜、東条式子、根本美咲、秋風美登利、新名恭子、天童榮、坂敷数枝、柴田善子、半田美枝、小林子、尾原富士子、岡坂弘子、村川トク子、鹿角子、渡辺尊子、西本喜子、浜田フミ子、矢野ツネ子、高木輝子、高木イキ子、福田正栄、藤井三重、岩部君、飯原美智子
- 五 藤田幸子、他各名
- 六 内田信子、清原子、谷田智恵子、松平敏子、池内泰子、宇多田裕子、藤原信子、古市紀子、井上伸子、鎌田仁恵、北村楓、桑原昭子、小島芳子、武田臣枝、長松俊子、橋本ノブ子、福家美代子、三谷敏子、村上豊子、綾田香智子、堀中美代子、川口正子、北村愛子、黒石正代、宮本ツギ子、平尾文子、蓮生子、高代子、井宮輝子、高橋孝子
- 七 高井子、木太敏子、笠江敏子、宮本幸子、吉田愛子、畑本孝子、藤弘子、藤原たけ子、田中和子、岡信子、小川由英、片山勝子、木本文子、筑紫美子、形見来子、邊見治枝、鶴川静子、山田善子、高橋孝子、福西寛子、渡沢シツ子、遠藤千桜子、加藤子
- 八 桜子、加藤子
- 九 桜子、加藤子
- 十 桜子、加藤子
- 十一 桜子、加藤子
- 十二 桜子、加藤子
- 十三 桜子、加藤子
- 十四 桜子、加藤子
- 十五 桜子、加藤子
- 十六 桜子、加藤子
- 十七 桜子、加藤子
- 十八 桜子、加藤子
- 十九 桜子、加藤子
- 二十 桜子、加藤子
- 二十一 桜子、加藤子
- 二十二 桜子、加藤子
- 二十三 桜子、加藤子
- 二十四 桜子、加藤子
- 二十五 桜子、加藤子
- 二十六 桜子、加藤子
- 二十七 桜子、加藤子
- 二十八 桜子、加藤子
- 二十九 桜子、加藤子
- 三十 桜子、加藤子
- 三十一 桜子、加藤子
- 三十二 桜子、加藤子
- 三十三 桜子、加藤子
- 三十四 桜子、加藤子
- 三十五 桜子、加藤子
- 三十六 桜子、加藤子
- 三十七 桜子、加藤子
- 三十八 桜子、加藤子
- 三十九 桜子、加藤子
- 四十 桜子、加藤子
- 四十一 桜子、加藤子
- 四十二 桜子、加藤子
- 四十三 桜子、加藤子
- 四十四 桜子、加藤子
- 四十五 桜子、加藤子
- 四十六 桜子、加藤子
- 四十七 桜子、加藤子
- 四十八 桜子、加藤子
- 四十九 桜子、加藤子
- 五十 桜子、加藤子
- 五十一 桜子、加藤子
- 五十二 桜子、加藤子
- 五十三 桜子、加藤子
- 五十四 桜子、加藤子
- 五十五 桜子、加藤子
- 五十六 桜子、加藤子
- 五十七 桜子、加藤子
- 五十八 桜子、加藤子
- 五十九 桜子、加藤子
- 六十 桜子、加藤子
- 六十一 桜子、加藤子
- 六十二 桜子、加藤子
- 六十三 桜子、加藤子
- 六十四 桜子、加藤子
- 六十五 桜子、加藤子
- 六十六 桜子、加藤子
- 六十七 桜子、加藤子
- 六十八 桜子、加藤子
- 六十九 桜子、加藤子
- 七十 桜子、加藤子
- 七十一 桜子、加藤子
- 七十二 桜子、加藤子
- 七十三 桜子、加藤子
- 七十四 桜子、加藤子
- 七十五 桜子、加藤子
- 七十六 桜子、加藤子
- 七十七 桜子、加藤子
- 七十八 桜子、加藤子
- 七十九 桜子、加藤子
- 八十 桜子、加藤子
- 八十一 桜子、加藤子
- 八十二 桜子、加藤子
- 八十三 桜子、加藤子
- 八十四 桜子、加藤子
- 八十五 桜子、加藤子
- 八十六 桜子、加藤子
- 八十七 桜子、加藤子
- 八十八 桜子、加藤子
- 八十九 桜子、加藤子
- 九十 桜子、加藤子
- 九十一 桜子、加藤子
- 九十二 桜子、加藤子
- 九十三 桜子、加藤子
- 九十四 桜子、加藤子
- 九十五 桜子、加藤子
- 九十六 桜子、加藤子
- 九十七 桜子、加藤子
- 九十八 桜子、加藤子
- 九十九 桜子、加藤子
- 一百 桜子、加藤子

—現校舎を舞台に贈る最後の文化祭—

第40回文化祭

テーマ「時代の共演」

期日 平成2年9月15日(土)・16日(日)

——同窓生の皆様のお越しをお待ちしています。——

高新聞・玉翠・カオス等の資料のバックナンバーを集めています。ご協力ください。

玉翠会員名簿の残部分があります。
必要な方は事務局までご連絡ください。